

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	明石市	地区名	明石市中心市街地地区(地方都市リノベーション事業)	面積	60.0 ha
計画期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度				

目標

- 【大目標】人々の暮らしを、海・食・時で彩るまちに
 【目標1】「便利で暮らしやすいまち」にする (ハード・ソフトの相乗効果で、暮らしを支える中心市街地の存在感を強化する)
 【目標2】「一歩足を伸ばして楽しめるまち」にする (気軽に足が向くように回遊環境を改善し、多様な地域資源と都市機能を磨く)

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)
 本市は、東西に細長いまちを形成しており、中でも明石駅を中心とした中心市街地を含む東部地域は、既成市街地として公共施設や商業施設が集積し、著しく成長してきた地域である。しかしながら近年では、モータリゼーションや民間開発などにより、西部地域や隣接する神戸市西区などにおいて複数の新市街地が形成されるとともに、新しい大型複合商業施設や住宅開発が行われ、中心市街地では人口減少や駅前商業施設の撤退など都市の空洞化が進み、「まちの顔」としての求心力も低下している状況にある。
 しかしながら、JR・山陽電鉄明石駅、バスなどといった公共交通機能が集中し、明石公園や天文科学館、魚の棚商店街などといった日常生活に密着する地域資源が豊富にあることから、明石駅を中心とした中心市街地を「中心拠点区域」に位置づけ、駅前の高度利用化されていない区域において市街地再開発事業を行い、商業施設だけでなく、公共施設の更新も行ない、都市として複合的なサービス機能の充実を図る。
 また、本市は、JRや山陽電鉄の鉄道網が東西にあり、駅を中心としたバス交通網を形成しており、利便性の高いアクセス機能をもつことから、中心市街地は、商業や公共公益、医療サービスなどといった生活機能において、本市の拠点的機能をもたせることとする。
 公的不動産の活用策としては、駅前の市街地再開発事業にあわせ、駅から離れ、老朽化した図書館を移転するとともに、子育て支援施設などといった市民の利用が多い施設を駅周辺に集約し、都市機能の拡散の防止と公共不動産の有効活用、適正配置を行いながら、賑わいの再生を図る。

まちづくりの経緯及び現況

- ・明石市中心市街地地区は、「第4次長期総合計画」において、JR・山陽電鉄明石駅を中心に、都市の「中心核」として位置づけられている。
- ・地区内には、魚のまち明石を象徴する「魚の棚」や、地区周辺には県下2位の集客力を誇る「明石公園」、時のまち明石のシンボルである「天文科学館」などがあり、市内外から多くの人が訪れている。
- ・地区の北側は神戸市と隣接し、南は淡路と海上交通で結ばれており、JR明石駅は大阪、神戸への交通の便の良さから、県下JRの中で第3位である約10万人/日の乗降客数があり、市内外にとって重要な交通結節点となっている。
- ・交通の至便性から、商業跡地の民間マンション開発が年々進み、中心市街地内の居住人口は増加している状況にある。
- ・しかし、平成10年に明石海峡大橋が開通して以来、海上交通利用者は激減し、中心市街地の歩行者通行量についても減少し、商業の販売額など年々減少している状況にある。
- ・平成12年には旧「中心市街地活性化基本計画」を策定し活性化を進めたが、平成17年には駅前の商業の核であった大規模小売店舗が撤退し、大型空き店舗の増加により都市の空洞化が進んで、賑わいが低下している状況にあり、平成20年に地元や商業関係者などが集まって、「明石市中心市街地活性化協議会」を設立し、中心市街地活性化に向けた事業の推進などについて議論を行ってきた。
- ・平成22年度には、国より新しく「明石市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、今後概ね5年間で中心市街地の活性化を進めることとなっている。
- ・大型空き店舗を含む明石駅前南地区については、平成23年度より市街地再開発事業による再整備を行うこととなっている。

課題

- ・明石の魅力が伝わり、使い勝手がよいと感じるようになっていない
- ・明石駅は日常的に多くの人達が通過しており、地域資源も豊富であるが、それらが観光客等に魅力的な場所として認知されておらず、「わざわざ中心市街地へ行く」目的にはなっていない。
- ・来訪目的が少なく、国道2号が分断要素となり、まちなかを気軽に回遊できていない
- ・国道2号が分断要素となり、多くの人の動きが明石駅周辺の限られた範囲でしかなく、来街者を強く惹きつけ、中心市街地全体へ円滑に回遊させる場所とはなっていない。

将来ビジョン(中長期)

【人々の暮らしを、海・食・時で彩るまちに】(明石市中心市街地活性化基本計画)
 地域資源がたくさん集まる中心市街地の魅力を強め、触れやすくすることで、明石で日々「時」を過ごす人々の暮らしをより楽しく豊かにできるような、明石市全体の活性化を牽引する中心市街地を目指す。

リノベーション事業の計画

都市機能配置の考え方

本市における西部地域などの新市街地においては、各地域の鉄道駅を中心とした生活圏内において日常的に必要な商業や公共機能の配置を行う。ただし、大型商業施設については、無秩序な開発を抑制するため、全ての準工業地域において、認定中心市街地活性化基本計画に基づく立地規制を行っているところである。
 中心市街地は、本市の都市活動の拠点となる「都市核」として、鉄道駅やバスターミナルといった交通結節機能、魚の棚商店街やアスピア明石などといった商業機能や銀行などの経済機能、図書館や市役所、市民ホール、明石公園などの公共公益機能を有していることから、全ての市民や来街者にとって、誰もが便利で使いやすく、愛着や誇りをもてる「まちの顔」として、広く情報発信出来る交流機能、教育文化機能などといった、さらなる複合的な機能の充実を図り、それらの効果が市全体へ波及する都市機能を形成し、強化を図っていく。

目標を達成する上で必要な「地方都市リノベーション推進施設」「生活拠点施設」の考え方(民間事業者による事業継続の見込みや民間事業に対する行政の支援等を含む)

交通結節点である明石駅を中心とした中心市街地である「中心拠点区域」は、駅前再開発を中心に公共公益・商業などの生活に必要な機能が複合的に集約された「便利で暮らしやすいまち」、魚の棚商店街やウォーターフロントなどの個性的で魅力ある場所をネットワーク化することにより回遊機能を高めた「一歩足を伸ばして楽しめるまち」を目指す。

このような都市を目指す中、子どもから高齢者まで幅広い世代の多くの市民が利用する図書館を、現在の明石公園内からよりアクセス性の良い明石駅前において移転整備し、蔵書数の増加や開館時間の延長など、施設の充実をあわせて図ることにより、空洞化が進む明石の駅前に新たな人の波を呼び込み、中心市街地の活力再生を目指していく。

地方都市リノベーションに必要なその他の交付対象事業等

図書館整備にあわせて、「子育て世代活動支援センター」により子育て世代のまちなかでの文化・購買活動を促進し、「地域交流センター」によりあらゆる都市機能の情報や人の交流を強め、「地域生活基盤施設(人工地盤等)」により来街者の回遊性を向上させることにより、総合的に都市の機能向上、魅力の創出を行うことにより再構築を行い、持続可能なまちづくりを進める。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値	目標値	
						基準年度	目標年度
駅前観光施設利用者数	人/日	駅前観光施設における1日あたり平均利用者数	より分かりやすい場所に駅前観光施設を整備することにより、観光客を呼び込める	120人/日	平成22年度	160人/日	平成27年度
歩行者・自転車通行量	人/日	国道2号南側調査地点における 休平日平均歩行者・自転車通行量(8時間)	国道2号より南の歩行環境の向上や活性化施策を行うことにより、通行量が増加する	20,120人/日	平成22年度	21,000人/日	平成27年度
歩行者空間満足度	%	安全で快適な歩行者空間に満足している割合	緑化等歩道の空間整備を行うことにより満足度が上がる	18%	平成22年度	36%	平成27年度
図書館の来館者数	人/日	図書館における1日あたりの平均来館者数	駅前という利便性の高い場所に図書館を移転させることにより、図書館の利用者数が増加する	1,022人/日	平成22年度	2,000人/日	平成27年度